事業名	サーモグラフィ設置事業

総事業費	2,505　千円

①　計画　（Plan）

長期振興計画の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	航路・航空路の利便性の向上

②　実施　（Do）

事業の意図		島内への新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する。
事業の実績と成果	取組内容	鹿児島県が実施する鹿児島本港南ふ頭での検温業務に対し、負担金の支出を行い、新型コロナウイルスの水際対策を行った。
	成　果	熊毛地域の1市3町で負担金を支出することで、新型コロナウイルスの感染対策を講じることができた。

③　振り返り（Check）

事業実施上の課題（事業担当者記入）	特になし
評価結果の根拠及び今後の課題（担当課長記入）	サーモグラフィー設置により水際対策と高速船利用者の安心につながったところである。

④　改善（Ａｃｔｉｏｎ）

2023年度方向性	令和４年度で事業終了

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	種子島地区航路・航空路支援給付事業

総事業費	10,000　千円

①　計画　（Plan）

長期振興計画の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	航路・航空路の利便性の向上

②　実施　（Do）

事業の意図		安定的に航路・航空路の運航を維持する。
事業の実績と成果	取組内容	新型コロナウイルス感染症で経済的打撃を受けた航路・航空路運行事業者に対し、安定した交通体制を保つことを目的として支援金を給付した。 2,000,000円×5社＝10,000,000円
	成　果	支援金を給付することで、安定した交通体制を維持することができた。

③　振り返り（Check）

事業実施上の課題（事業担当者記入）	令和５年度以降についても、交通事業者からの支援金の要望があるという状況
評価結果の根拠及び今後の課題（担当課長記入）	航路・航空路についてはコロナ禍の厳しい経営環境にありながら運行維持に協力をいただいており、安定運行のために熊毛管内市町と相談の上、支援のあり方を模索していく必要がある。

④　改善（Ａｃｔｉｏｎ）

2023年度方向性	令和４年度で事業終了

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	有人国境離島法関連事業

総事業費	47,161　千円

①　計画　（Plan）

長期振興計画の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	航路・航空路の利便性の向上

②　実施　（Do）

事業の意図		離島であることの条件不利性（交通に要する時間や費用負担)を軽減することで、継続的な居住が可能となる整備を図る。
事業の実績と成果	取組内容	県協議会が事業主体となって行う航路・航空路運賃低廉化事業において、通常料金と補助適用後料金の差額の一部を実績に応じ負担金として県協議会へ支出する。 負担割合：国55%、県22.5%、市22.5%（種子島-屋久島間の利用実績及び交付対象事業費は市町村の負担割合（種子島：屋久島＝7：3）に応じて按分）
	成　果	制度も住民に浸透しているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響や運賃の値上げもあり利用実績は減少している。 令和２年度航路・航空路運賃低廉化事業利用実績80,296人（前年比54.9%、66,060名減少）

③　振り返り（Check）

事業実施上の課題（事業担当者記入）	本制度はJR運賃が基準となっているが、R4.4.1からのJR特急運賃が値上げとなったことに併せて、住民の負担が増えるということになった。2月から特例で、値上げ前の高速船運賃（島発往復）11,700円となったが、利用者からはその効果を実感しにくい状況である。また、燃油サーチャージ分は、補助対象とならないことから、燃油高騰など社会情勢により、更に住民の負担が増す状況も出てくる。
評価結果の根拠及び今後の課題（担当課長記入）	国による要領改正で値下げがなされた高速船については、令和４年３月31日までの9,700円（バンカーサーチャージ含む。）に至っていない。住民の生活航路として活用されており、引き続き、低廉化に向けた取組が求められる。

④　改善（Ａｃｔｉｏｎ）

2023年度方向性	今年度も引き続き、航路航空路の利便性向上に努めるとともに、安定的な運航維持と、市民の航路航空路運賃の負担軽減を目指す。

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明